

荒川流域エコネット地域づくり推進協議会 これまでの経緯

(1) 荒川流域エコネット地域づくりアクションプランの策定経緯

H29年度 推進協議会の設立

荒川流域エコネット地域づくり推進協議会（以下「推進協議会」）の設立

※WG設置に向けた調整等

R2年度 WGの設立・アクションプランの策定

- ◎ **荒川流域エリア・ワーキングの設置（学識者、市民団体、自治体、河川管理者）**
⇒計3回のワーキング会議においてアクションプランの内容・役割分担等について意見交換を行った。
- ◎ **第2回荒川流域エコネット地域づくり推進協議会を開催**
⇒推進協議会においてアクションプランの内容を確認・承認。今後の取り組み推進に向けて期待することについて意見交換を行った。



- ◎ 第1回WG（2020.11.12）
- ◎ 第2回WG（2020.12.24）
- ◎ 第3回WG（2021.2.15）



- ◎ 第2回推進協議会（2021.3.4）
WEB会議形式にて
アクションプランを承認



(R3.3策定)
**荒川流域エコネット地域づくり
アクションプラン**

※WGを継続してアクションプランに関する具体的な取り組みを進める
(第2回推進協議会にてWG継続のための「WG規約・委員名簿」の改定を承認)

R3年度～ アクションプランの推進

- ◎WGを年2回程度（期初・期末）開催し、当年度・次年度のプラン実行計画案を相談しながら取り組みを推進し、結果を協議会へ報告する。
- ◎協議会では、WGからの報告事項を受け、アクションプランの進捗状況を確認する。また、必要に応じて、次年度以降の実行計画や体制の見直しなどを検討するなどし、取り組みの推進を図る。

WG（年1～2回程度開催を想定）

推進協議会（年1回程度）

期初WG（5～6月頃）
【R3.6.3開催】
◎当年計画の相談
(内容、時期、役割分担等)

(対策・検討の実施)
→
(調整・相談は適宜)

期末WG（12～1月頃）
【R3.12月下旬予定】
◎当年結果の確認
◎次年度計画の相談

(報告)

取り組み推進確認（2～3月頃）
◎当年結果、全体進捗の確認
◎次年度計画の承認（必要に応じ見直し）

※R4年度以降のWGは、当年結果の確認・次年度計画の相談を、期末にまとめて1回実施するなど、効率化を図っていくことも想定する。

荒川流域における「エコネット地域づくり」の目標達成

(2) アクションプランの目指すもの

1) 取り組みの目標

- コウノトリ、トキを指標とし、河川及び周辺地域における治水と調和した水辺環境の保全・再生によるエコロジカル・ネットワークの形成、また、それらを活用した地域振興・経済活性化を推進すること。

2) アクションプランの位置づけ

- 本取り組み目標達成に向けて、今後10年で、地域関係者がそれぞれ、あるいは連携・協力して行っていこうとする取り組みについて、地域関係者による意見交換のうえとりまとめたもの。
- 協議会関係者が、可能な範囲で、連携・協力・調整するなどして推進していくことを想定する。
- 5年程度で取り組み状況を確認し、成果や課題を踏まえ、必要に応じて計画を見直しながら、推進していく。

(3) アクションプランの内容

1) 生物の生息環境保全に関するプラン

プラン	取り組み内容 (例)
(プラン①) 合同生きもの 調査の実施	◎関係者各自で実施している水辺の調査を、連携・協力（相互参加や技術交流等）により盛り上げます。 ◎関東エコネットで公表されているコウノトリ採餌量調査の手引きを活用するなどし、各地域の河川・農地等における統一した手法による調査実施を支援します（調査体験会の運営補助や機材の貸出し等）。
(プラン②) ゴミ・外来種問題 への対応	◎関係者各自で実施している清掃活動（プラスチックごみ対策など含め）や外来種駆除対策を、連携・協力（相互参加や技術交流等）により盛り上げます。 ◎清掃時等にも活用できる外来種駆除の手引きを作成・配布するなどし、各地域の河川・農地における外来種対策を支援します。
(プラン③) 環境学習・観察会 の推進支援	◎関係者各自で実施している環境学習会や自然観察会を、連携・協力（相互参加や技術交流等）により盛り上げます。 ◎本プランで挙げた指標種・シンボル種の学習・観察会の実施を支援（開催の運営補助やテキストや機材の貸出し等）します。
(ベースとなる取り組み) これまでの活動継続	協議会関係者が、河川や農地、里山林、公園等でこれまでに実施してきた各種取り組みを、それぞれ、引き続き推進する。

2) 地域振興・経済活性化に関するプラン

プラン	取り組み内容 (例)
(プラン④) 各種広報の 展開	◎関係者各自で実施している環境関連の催事や拠点等を、連携・協力（相互参加や技術交流、エリア共通カレンダーの整理等）により盛り上げます。 ◎荒川流域エコネット地域づくりの取り組みや、地域の活動・魅力に関する広報を推進（ロゴマークやPR資料の検討・作成、それらを活用した行事出展等）します。
(プラン⑤) エコツアーの 推進支援	◎関係者各自で実施している観光振興の対策を、自然の恵みを活用して支援します。 (例：自然観察スポット、特産品（コウノトリのエサ資源にもなるドジョウ等）、サイクリング・ウォーキングマップ等の関連情報の収集・整理・発信、観光スポットの生態的な価値に関する情報提供、自治体同士の連携によるスタンプラリー、森林セラピー等)
(プラン⑥) 関係者間の ネットワーク支援	◎さまざまな場所・機会において、個人や市民団体、企業、自治体等の地域関係者間の連携促進を図ります。 (例：流域情報の収集・整理・発信、交流会・発表会や人材紹介による地域関係者同士の連携・交流の促進、情報共有のためのSNS活用等)
(ベースとなる取り組み) これまでの活動継続	協議会関係者がこれまでに実施してきた、環境に配慮した地域振興に関する各種取り組み（観光・商業・地域連携等）を、それぞれ、引き続き推進する。

本年度 重点的に取り組む項目

(4) 推進協議会・エリアワーキング会議の開催経緯（主なご意見等）

①第2回 荒川流域エコネット地域づくり推進協議会

令和3年3月4日（木）14：00～15：30 / Web会議形式（Zoom）

- コウノトリ野生復帰を目指すにあたり、多くの生物が生息できる環境づくりが重要だと考えている。
- アライグマの外来種問題を抱えており、広域連携で駆除対策を推進していくことを期待している
- エコネット地域づくりは北本市内の埼玉県自然学習センターの積極的な協力によって取り組みが進められており、森林セラピーを推進している場所でもあり、埼玉県自然学習センターと協力してアクションプランを進めてほしい。
- 今後のエコネットの取り組みにおいては住民参加が重要となるため、環境保全に取り組む市民団体ともエコネットの活動で連携させていただきたい。
- 地域の子どもたちをアクションプランの活動に巻き込んでいくことを要望したい。
- アクションプランと治水対策を情報共有しながら進めていくことが重要である。事務局から治水対策工事もご紹介いただき、連携しながらアクションプランを実行していくことを期待している。

②令和3年度第1回 荒川流域エリア・ワーキング

令和3年7月2日（金）10：00～12：00 / 荒川上流河川事務所大会議室・Web会議併用

- 荒川流域にコウノトリ餌生物がどれだけ生息しているか、これから調査を行い、意識を高めていきたい。
- アレチウリやオオブタクサの駆除を実施している。どのようなやり方がいいか勉強しながら外来種対策を進めていきたい。
- 単なるごみ問題ではなくプラごみによる海洋汚染やそれらを減らすことに結びつけていくとよい。
- 鴻巣市にコウノトリ放鳥拠点が整備され、放鳥から数年後には荒川流域に戻ってくることが期待できる。コウノトリ採餌ポテンシャルの高い場所を整理しておくこと、採餌・繁殖の場づくりを進めていくことが重要である。
- 埼玉県内の平野部を見ると、古い神社や城址等に古い巨木が残っており、営巣木となる可能性があると思えば、その周辺に採餌環境を構築していくという視点もある。
- （協議会ロゴマークについて）なにか埼玉県らしさ・荒川流域らしさがあるとよい。
- 協議会の正式な英語名は無いとみられる。全体会議の際に思いつけば良かったが、荒川流域からうまく提案できればと思う。正式な英語名があると海外へのアピールとなる。

③令和3年度第2回 荒川流域エリア・ワーキング

令和4年1月14日（金）14:00～16:00 / 荒川上流河川事務所大会議室・Web会議併用

- 外来種問題は、捕食・被食の関係はどう制御するか、生態学的な視点で考えていくことが大切である。どこでどのような影響が生じているか、全体像を整理し、エコネットの取り組みとの関係性を分かりやすく示せるとよい。
- 利根川から荒川にかけて水路が通っており、工夫すれば用水路などに魚類が遡上してくる可能性もある。釣り人などから「どこにどんな魚がいるか」を聞き取って整理するのもよいのではないか。
- 植生が古くから残されている寺社・城跡などには、大型のクロマツなどが生育していることがある。そうした文化財として保存されている巨木も、コウノトリが繁殖場として利用する可能性があることから、分布データをコウノトリ定着ポテンシャルマップへ反映できるとよい。
- 広報紙やHPで取り上げやすいよう、アクションプランの策定や、取り組み実施状況など、市民の皆さんに情報提供できる事項をとりまとめてもらえるとよい。
- 今後の取り組み評価のため、さまざまな方面のデータを収集しておくことが重要であり。特に、エコロジカル・ネットワーク形成のもたらす経済的価値に関する評価は重要になると思われる。

推進協議会、エリア・ワーキングにおけるご意見・ご指摘・アイデア等を踏まえて、本年度の取り組みを進めるとともに、次年度の計画案を整理した（本推進協議会にて報告する）。